

経営比較分析表（令和3年度決算）

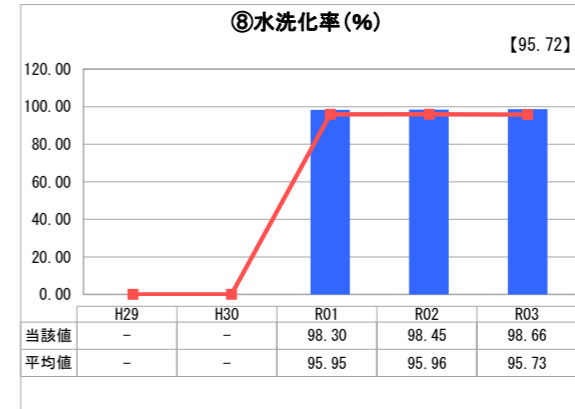
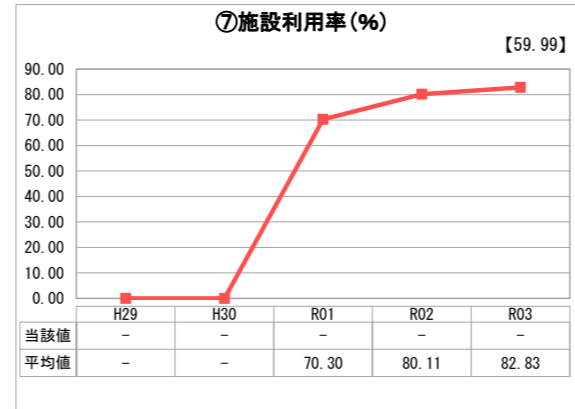
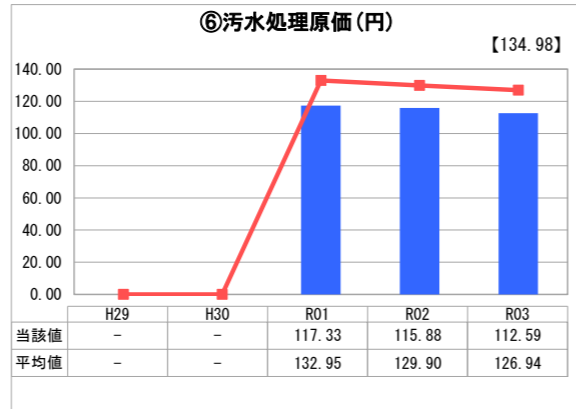
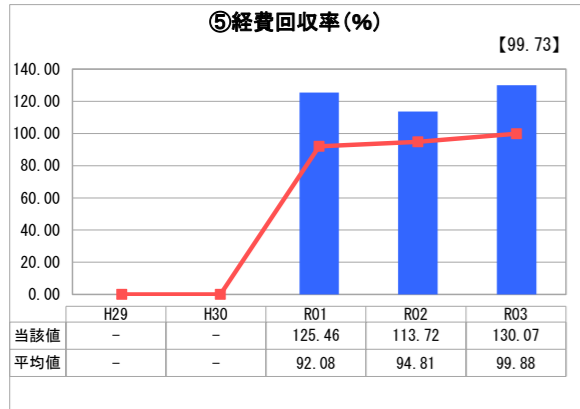
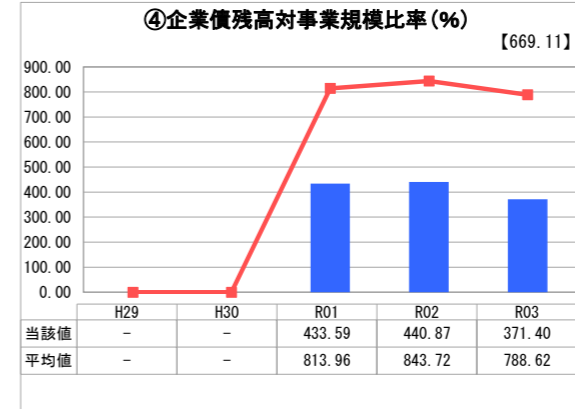
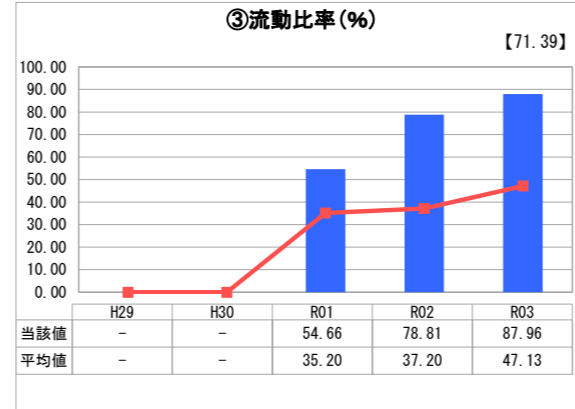
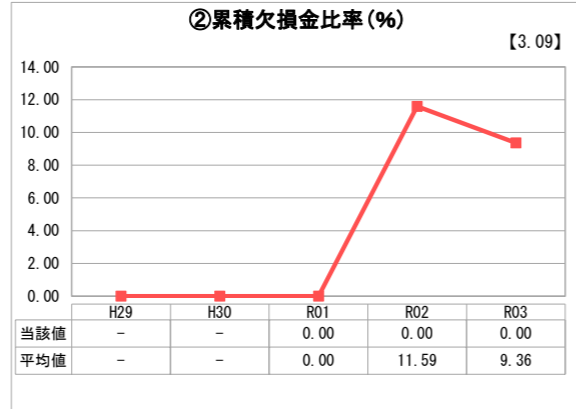
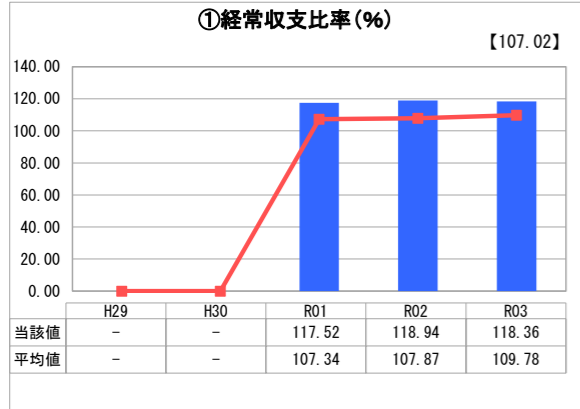
大阪府 交野市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	公共下水道	Bb1	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	72.75	96.14	88.97	2,607

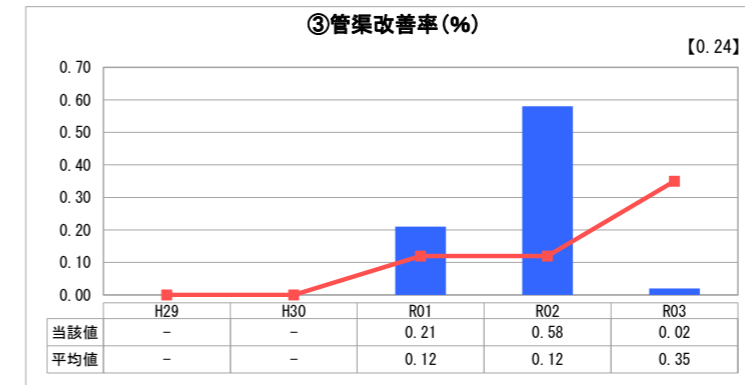
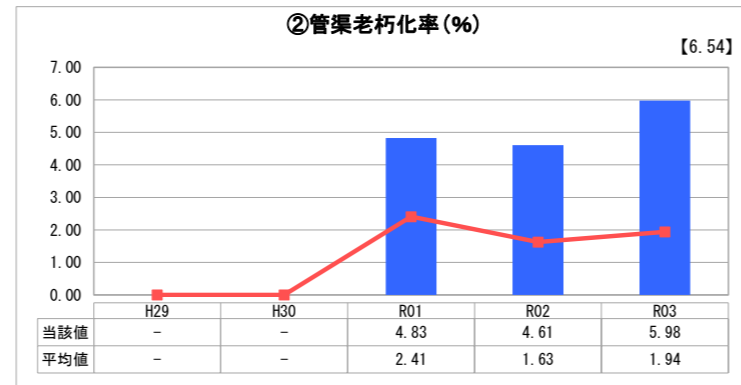
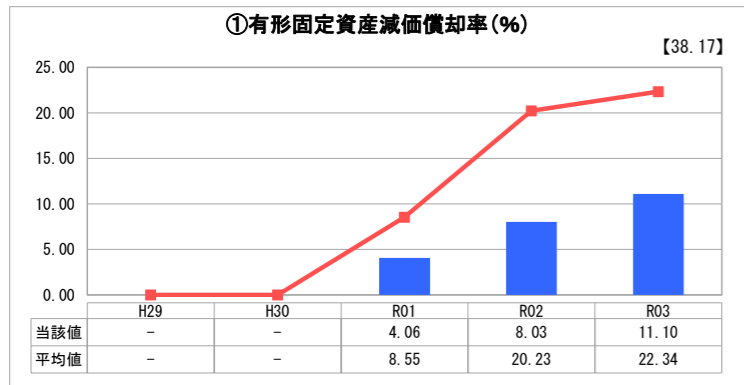
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
77,431	25.55	3,030.57
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
74,431	9.23	8,064.03

グラフ凡例	
■	当該団体値(当該値)
—	類似団体平均値(平均値)
【	令和3年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

経常収支比率は100%を超え、類似団体平均を上回っていることから、安定した経営ができています。流動比率は100%に満たないが、上昇傾向にあり、現金残高が確保できつつある。企業債残高対事業規模比率は前年度比減だが、これは前年度より事業が抑えられた結果であり、今後の事業予定を鑑みれば増加に転じることが予想される。ただ本市は類似団体平均より大きく下回っており、投資規模拡大に十分耐え得ると考える。経費回収率は前年度より改善しており、100%を超え、類似団体平均と比べても高水準であり、使用料の設定が適切な状態であると考えられる。

2. 老朽化の状況について

令和3年度においては、開発事業に係る新設工事に重点を置いたために、老朽管渠の更新が大きく疎かになった。管渠老朽化率の悪化、管渠改善率の著しい減少を見るに明らかである。有形固定資産減価償却率も着実に増している。

全体総括

総合して、使用料収入で必要経費を賄うことができる、健全な経営状態を維持できていると判断する。ただし、使用料収入そのものは微減傾向を続けており、物価上昇による維持管理経費の膨らみも懸念される。また、老朽管渠の更新投資も今後本格化することから、使用料の改定も視野に入れつつ今後の収支状況の動向を注視する。

※ 「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のみ類似団体平均値及び全国平均を算出しています。